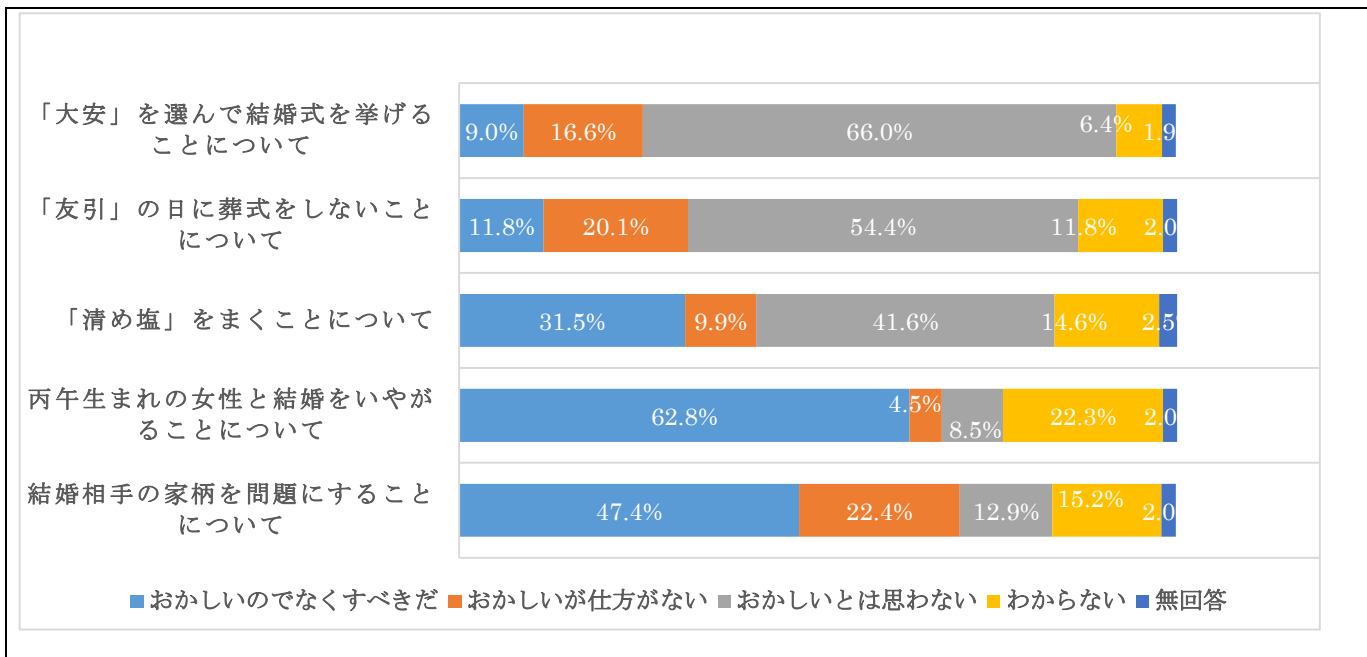


ならわし・しきたり（慣習・風習）について

ならわし・しきたり（慣習・風習）について、どう思いますか。

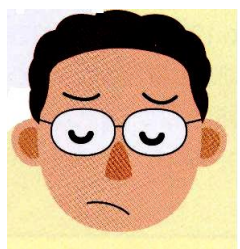


根拠のない事実に基づかない「ならわし・しきたり」は、時として人の心を惑わし、正しく物事を判断する力を削いでしまいます。それによって「差別」が温存・助長されてきたことも事実です。昔ながらのならわし、しきたりも「なぜ?」「どうして?」と考えることが大切ではないでしょうか。



私たちの身の回りには、あたり前と思っていることも、よく考えてみると変なならわしや、しきたりがあるのよね。

そういえば大安・友引や清め塩などを気にする理由って何だろう。よく考えたこともないなあ。



六曜とは
カレンダーや暦に記載されている先勝・友引・先負・仏滅・大安・赤口が機械的に繰り返されるもの。中国で生まれたとされていますが起源は明らかではありません。日本には鎌倉から室町時代に伝わり、名称や内容など様々変えられ19世紀当初現在の形になっています。

仏滅や友引という仏事と関係があるような言葉が使われていますが、仏教と一切関係はなく科学的根拠のない迷信です。迷信とわかっているにもかかわらず「昔からそうだから」「みんなが言うから」ということで、結婚式や葬式などの日取りがこの「六曜」をもとにして決められている現実がまだまだあります。

カレンダーイラスト

清め塩は何のため

日本では昔から「塩で清める」ことが行われてきました。これは日本人の祖先が「ケガレ」という考えを持ち、周りに伝染すると考えられ、それを防ぐために行われました。中でも「死・血・産（出産）」は三大不浄として大変おそれられ、「清め塩」はこれらのケガレをはらうために生まれました。



お通夜やお葬式で配られる清め塩は廃止される傾向にあります。



こんなこともありました

以前大相撲の春場所（大阪場所）において、当時大阪府の太田房江知事が自ら土俵にあがり優勝力士を表彰したいと表明したものの、日本相撲協会に「日本の伝統文化」を理由に土俵にあがることを拒否されました。これも「清め塩」と同じく「ケガレ」という考えが原因となっており、女性の「生理」や「出産」は「三大不浄」の「血・産（出産）」に関わりが深いために、女性自身がケガレているとみなされました。そのため祭祀や神事などの神聖な場所への立ち入りが禁じられてきたことから、古来の神事を発祥としている大相撲も神聖な場所とされる土俵にあがることができませんでした。身近な問題としてもっと考えていかなければならないのではないでしょうか。

ケガレているって、どういう意味なの？



迷信や世間体にとらわれる意識はありませんか？

私たちの社会の中にある「六曜」や「丙午生まれの女性は気性が激しく、夫の命を縮める（食い殺す）」という迷信や、結婚の際に家柄や格式にこだわるなどの、非合理的な考え方や世間体にとらわれていることがないでしょうか。この他にも地域や集団の中で、必要以上に世間体を気にしてしまう場合や、行動の正しさよりも周囲への同調が求められるような場合が多いことも、差別や人権侵害が助長される場合があります。

あたり前のことと思っただけ、なぜなのか考えることが大切だな。

「なぜ？」「どうして？」と考えてみましょう

私たちの日常の生活の中で「昔からいわれていることだから」「みんながしていることだから」というように、これまで当然のように行ってきた「ならわし・しきたり」とはどんな意味をもっているのでしょうか。おかしいとは思っても「世間体」にとらわれる意識が、意味も考えずに根拠のないものを受け入れてしまうことになり私たちの生活を縛り、差別を温存する土壌を作ってきました。昔からの「ならわし・しきたり」がどんな意味をもっているのか、「なぜ？」「どうして？」と考えることが大切ではないでしょうか。

